

演題番号: P4-2

筆頭名:水間紘子

筆頭所属名: 昭和大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー内科

共著者名:

○水間 紘子 1)、田中 明彦 1)、山口 宗大 1)、大田 進 1)、本間 哲也 1)、山本 真弓 1)、渡部 良雄 1)、橋本 直方 1)、横江 琢也 1)、松倉 聡 1)、足立 満 2)

共著者所属:

1) 昭和大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー内科 2) 呼吸器・アレルギー疾患研究所

演題名: 季候が喘息コントロールに与える影響

【背景】気管支喘息のコントロールに影響を与える要因の一つに季節（季候）がある。小児領域では秋の季節に喘息コントロールが悪化しやすく救急外来の受診が増えることが報告されている。一方、成人における報告は一定の見解を見ない。【目的】昭和大学病院に通院中の成人喘息患者 200 名を対象に、喘息状態を悪化させる季候についての調査を行った。【方法】患者背景、呼吸機能検査と共にアンケートを行った。方法は以下の季候から複数の選択方式とした。(1. 花粉症、2. 梅雨、3. 夏の暑い時期、4. 台風、5. 秋の冷え込み、6. 冬の寒い時期、7. 春の寒暖) また、その中でも最も悪化しやすい季候も選択させた。【結果】患者背景は 200 名中 80 名が男性、平均年齢 58.2 歳、平均罹患年数が 26.9 年であった。200 名中 141 名 (70.5%) の患者が、喘息コントロールが悪化しやすい特別な季候があると回答した。季候性変化あり群は中等症以上の重症度の割合が高く、平均年齢が低い傾向があった。喘息が悪化する季候として最も多く選択されたのは秋の冷え込みであり、少なかったのは夏の暑い時期であった。また、軽症患者は秋の冷え込みによって、中等症以上においては冬の寒い時期に症状が悪化する傾向があった。閉塞性換気障害を有する患者群においては冬の寒い時期、閉塞性換気障害がない患者は秋の冷え込みによって悪化すると答えた患者が最も多かった。【結語】秋の冷え込みによって喘息症状が悪化すると回答した患者が最も多く、特に重症の患者は冬の寒さによって悪化しやすい可能性が示唆された。